

池原 昭治の

さやまのふるさと

第105話

猫のお話



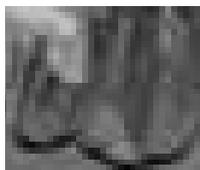
昔から猫は人間の生活の中にとけこみ、家族の一員として暮らしていました。猫舌、猫なで声、猫に小判、猫ぐるま、猫化け、福猫、ゲルゲル回して猫の目…少し考えただけで猫に関する言葉がたくさん浮かび、猫が私たちの身近な存在であつたことが分かります。狭山あたりでも、養蚕が盛んなころはお蚕さんの大敵であるねずみを退治するために、猫を飼う農家が多かつたようです。

猫好きのおばあさんから、たくさんのお話を聞きました。ねずみにだまされて十二支に入れなかつた猫は、その恨みで今なお、ねずみを追い回しているという昔話や、猫の性格によって「ネコ、ヘコ、トコ」と呼び分けていたお話などです。それに、猫は歳をとると『猫また』といって、人間の言葉が分かるようになるので、猫のいる所では決して家の中の秘密を話してはいけません。だともいいます。また、猫によるお天気占いもあり、猫が耳の後ろから顔をなでると、必ず雨が降ると、農家では翌日の作業のための天気予報にしたそうです。

広報さやま平成7年5月10日号に掲載

わかるかな？

今月の写真クイズ



写真は、今月の広報さやまの中に掲載してある写真の一部を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか？

解答をお寄せいただいた正解者の中から、抽選で5名の方に記念品を差し上げます。官製はがきで、広報課宛お送りください。

締め切り2月29日(当日消印有効)



【1月10日号の写真クイズの答え】

表紙のサル山の奥に見える自動販売機の写真でした。

表紙の写真

1月24日、梅宮神社(上奥富)で第21回文化財防火デー防火訓練が行われました。昭和24年1月26日に法隆寺金堂壁画が焼損したことから、この日が「文化財防火デー」と定められ、全国で実施されているものです。当日は、文化財の搬出やバケツリレーなどの初期消火訓練に、地元の自治会や消防団など約100名が参加し、貴重な文化財を後世に伝える大切さを感じるとともに、防火の意識を高めました。



埼玉県生態系保護協会狭山支部 高橋昇さん(中新田)

ツグミ

(スズメ目ヒタキ科)

全長24cm。目の上にあるクリーム色の眉斑、翼上面の赤褐色や胸の黒斑がよく目立ちますが、その濃さは1羽ずつ違います。春から夏にかけてシベリア東部からカムチャッカで繁殖し、日本には

冬鳥として秋ごろ全国に渡来します。渡来したばかりのころは警戒心が強く、樹上で木の実を食べますが、徐々に地上に降りてきて、ミミズなども食べるようになり、冬になると、開けた場所で見られることが多くなります。地上で両足を揃えて数歩ピョンピョンと歩いては立ち止まり、胸をそらして静止する独特のポーズをとります。「キョッ、キョッ」「クィ、クィ」と鳴きますが、「ツィー」という声を出すこともあります。冬場には人家の餌台にもよく姿を見せます。